

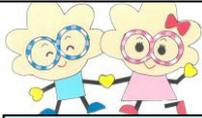
令和7年度
学校評価報告書

伊予市立下灘小学校

令和7年度 教育計画 伊予市立下灘小学校			学校番号 65
校長名 城戸 隆之	学級数 3	児童数 23	男 3 教職員数 計6 女 3

<学校の教育目標>

夢を持ち ともに伸びる下灘っ子の育成



校訓 しもなだ

しっかり 考える子	もくもくと がんばる子	なかよく 明るい子	だんだん のびる子
--------------	----------------	--------------	--------------

めざす児童像

自ら考え 進んで学ぶ子 読書に親しむ子	命を大切にし、 健康で明るい子 進んで運動に取り 組む子	互いに認め合い、 助け合う子 思いやりを持っ て、仲間と協力し 合える子	夢や目標を持ち、 最後までやりぬ く子 自分の良さに気 付く子
-------------------------------	---	--	---

めざす学校像

- 笑顔がいっぱいである安心できる学校
- 地域に愛され、地域とともにある学校

めざす教師像

- 使命感を持ち、自己を磨き続ける教師
- チームで協働し効率的に仕事に取り組む教師

よく学び よく遊ぶ 笑顔あふれる学校

ともにつくる「しもなだ」教育

- コミュニティ・スクールの推進
- 学校ボランティアとの連携
- PTA 活動の充実と地域との連携
- 公民館・保育所・中学校との連携



理解・協力
情報交換

理解・協力
情報交換

家庭
《心やすらぐ場》

地域
《学びが広がる場》

理解・協力
情報交換

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">重 点 目 標</p>	<p>1 「しっかり考える子」を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的・対話的で深い学びを実現するための複式学習の工夫と推進 ○ 学習習慣・読書活動の推進と望ましい言語感覚の習得 ○ 誰一人残さず一人一人のニーズに対応したきめ細かな指導の推進 <p>2 「もくもくとがんばる子」を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 望ましい生活・安全習慣を形成する自己管理能力の育成 ○ 外遊びの習慣化と体力向上への取組の推進 ○ 下灘太鼓の継承・発展 <p>3 「なかよく明るい子」を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 挨拶の励行による、温かい人間関係の確立 ○ 自他の生命を尊重し、「人」を大切にすると人権・同和教育の推進 ○ 全教育活動を通じた道徳教育の充実 <p>4 「だんだんのびる子」を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己肯定感の育成につながるキャリア教育の充実 ○ ICTを活用した個別最適な学びの実現 ○ 児童理解に基づく教育相談体制の強化 <p>5 地域に愛され地域とともにある下灘教育の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校評価を活用したPDCAサイクルによる学校運営の推進 ○ 家庭・地域社会と連携した総がかりの教育を目指す学校風土づくり ○ コミュニティ・スクールの推進と学校ボランティアとの連携
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">管 理 運 営</p>	<p>1 人的管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 笑顔あふれる、温もりと励まし合い、やりがいのある職場づくり ○ 働き方改革につながる、地域コーディネーターや地域人材と連携・協働した教育体制の確立 ○ 「報告・連絡・相談・確認」の徹底を図る組織的取組の強化 ○ ワーク・ライフ・バランスの実現とコンプライアンスの徹底 <p>2 物的管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急体制の確立と防災体制の整備・推進 ○ 教育環境の美化・整備と施設・備品等の有効な活用 ○ 安全点検の確実な実施と危険箇所への即時対応 <p>3 事務管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 郡中共同学校事務室を基盤とした組織的な運営 ○ 校務分掌の明確化と迅速で正確な処理 ○ 情報管理体制の確立と個人情報情報の保管・管理の徹底
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">本 校 教 育 の 特 色</p>	<p>本校は、豊かな自然環境に恵まれ、地域の方々の優しさに支えられた学校である。明治7年の開校以来、地域の特性を生かした教育活動を展開し、今年度 151周年を迎える。これらの伝統を継承・発展させるとともに、子どもたち一人一人が夢や目標を掲げ、多様な人と協働し進んで努力していく力を培う教育活動を行っていく。地域との協働活動を推進し、「夢を持ち ともに伸びる下灘っ子の育成」の教育目標の下、地域に愛され、ともに歩む学校を核とした地域づくりに貢献できる学校を目指していきたい。</p>

評価計画【評価指標・目標値】

(伊予市立下灘小学校)

小項目 (重点目標)	番号	評価指標	目標値
「しっかりと考える子」をはぐくむ	1	学習道具の準備、話す、聞く等の基本的な学習態度が身に付いているか。	教職員、児童、保護者の80%以上が肯定
	2	学習課題を明確にし、対話的な学習を取り入れた授業改善を行うことにより、読解力や表現力が身に付いているか。	教職員、児童、保護者の80%以上が肯定
	3	読書習慣が身に付くように、自分でめあてを決めて進んで読書活動に取り組んでいるか。(自分の決めた冊数の達成)	教職員、児童、保護者の80%以上が肯定
	4	児童一人一人の実態に配慮した授業実践に努めているか。	教職員の80%以上が肯定
「もくもくとがんばる子」をはぐくむ	5	「早寝・早起き・朝ご飯」等の望ましい生活習慣が身に付いているか。	教職員、児童、保護者の80%以上が肯定
	6	安全への関心をもち、進んで安全な生活を送ろうとしているか。	教職員、児童、保護者の80%以上が肯定
	7	体育授業や生活の中で進んで体を動かし、学年の発達段階に応じた体力が身に付いているか。	教職員、児童、保護者の80%以上が肯定
	8	下灘太鼓の継承・発展に努め、地域を大切に思う気持ちを育成しているか。	教職員、児童、保護者の80%以上が肯定
「なかよく明るい子」をはぐくむ	9	互いの良さを認め合い、支え合う仲間づくりができているか。	教職員、児童、保護者の80%以上が肯定
	10	自ら考え、議論する道徳科の授業の創造に努め、発達段階に応じた道徳的な判断力や心情、態度が育っているか。	教職員、児童、保護者の80%以上が肯定
	11	挨拶運動を推進し、誰に対しても気持ちのよい挨拶ができる児童が育っているか。	教職員、児童、保護者の80%以上が肯定
「だんだんのびる子」をはぐくむ	12	ICTの積極的な活用やキャリア教育の充実など、一人一人を大切に指導を通して、自己肯定感を醸成することができているか。	教職員、児童、保護者の80%以上が肯定
	13	時と場に応じた適切な言葉遣いができているか。	教職員、児童、保護者の80%以上が肯定
	14	児童理解に努め、児童の変化や悩みに敏速に対応し、全教職員が共通理解のもと、指導、支援に当たっているか。	教職員、児童、保護者の80%以上が肯定
管理・運営	15	勤務時間・健康管理を意識した働き方の促進に努め、自らの働き方の改善を図っているか。	教職員の80%以上が肯定
	16	一人一人が自分の役割を自覚し、報告・共通理解・確認を密にしながら組織として対応しているか。	教職員の80%以上が肯定
	17	避難訓練や防犯訓練などを適切に実施して、児童や教師に安全対応能力が身に付いているか。	教職員、児童、保護者の80%以上が肯定
	18	会計事務、情報管理の厳正化や綱紀の保持など、服務規律の遵守に努めているか。	教職員の80%以上が肯定

令和7年度 学校評価（後期）

伊予市立下灘小学校（令和7年12月）

【評定基準】 A:目標を達成 B:8割以上達成 C:8割未満の達成

【評価基準】 ◎:8割以上が肯定 ○:6割以上が肯定 △:6割未満が肯定

重点目標	番号	評価指標 及び 目標値 ※ 目標値は、教職員・児童・保護者の肯定率が、80%以上が肯定である。	評定			学校による考察・改善方策	対象	達成評価			肯定率			集計結果									
			R 6 後	R 7 前	R 7 後			R 6 後	R 7 前	R 7 後	4 大変良い	3 良い	2 あまり良くない	1 良くない									
		学校は楽しい。	A	→	A	→	A	◎	→	◎	→	◎	92%	→	100%	→	100%	78%	22%	0%	0%		
「しっかりと考える子」を育む	1	本校では、チャイムの合図、次の授業の準備、話を聞く態度等、学習規律や学習態度の定着に努めていますが、あなたのお子さんは、学習規律・学習態度が身に付いていますか。	A	-	A	-	A	教職員100%、児童96%、保護者90%の肯定率で、高い水準を維持している。これまでの積み重ねにより、児童は落ち着いた態度で学習に取り組み、授業中の席立ちがなくなってきている。しかし、前期と比較して、保護者の肯定率が下がっているため、今後は学校全体で学習規律や学習態度の定着に一層努めていき、特に話を聞く力や自己有用感などの、否認能力の向上を目指していきたい。	教職員	◎	→	◎	→	◎	83%	→	100%	→	100%	33%	67%	0%	0%
									児童	◎	→	◎	→	◎	81%	→	96%	→	96%	52%	43%	4%	0%
									保護者	◎	→	◎	→	◎	95%	→	100%	→	90%	50%	40%	10%	0%
	2	本校では、学習課題を明確にした、分かる授業づくりのための授業改善に努めていますが、あなたのお子さんは、文章を読み取ったり、読み取った内容や自分の考えを主体的に表現しようとしていたりしていますか。（参観日の授業や家庭での会話などから）	A	-	A	-	A	前期の結果と比較すると、教職員の肯定率が下がっている。2学期に、全教員による研究授業を実施し、授業における課題が見えてきたからだと考える。複式授業においても、児童が文章を読み取ったり、読み取った内容や自分の考えを主体的に表現しようとしていたりするための分かる授業づくりに努めたい。今後も、教員間での情報共有等を積極的に行うなど深い学びに向けた授業改善を推進し、教師一人一人の授業力の向上を目指したい。	教職員	◎	→	◎	→	◎	83%	→	100%	→	83%	33%	50%	17%	0%
									児童	◎	→	◎	→	◎	85%	→	91%	→	96%	61%	35%	4%	0%
									保護者	◎	→	◎	→	◎	89%	→	89%	→	100%	10%	90%	0%	0%
	3	本校では、朝読書の時間を設けたり、児童会「図書委員会」から読書の楽しさを伝えたりして読書活動を推奨していますが、あなたのお子さんは、読書に親しんでいますか。	C	-	C	-	C	読書に楽しさを感じていない児童が多いことが課題であったが、2学期に、図書委員会を中心に、読書活動推進に向けたクイズや読書ビンゴ、読書パズルを行うことで、徐々に図書室を利用する児童が増えた。また、12月には、おすすめの本を紹介し、最も読みたくなった本を決定する「ビブリオバトル」を行い、本の面白さを伝え合ったことで、読書の楽しさを実感した児童が増えたと考える。今後も、児童が本を身近に感じ、楽しみながら読書を進められるように、図書委員会の企画を工夫したり、ビブリオバトルのような本に親しむ機会を増やしたりしたい。	教職員	○	→	△	→	△	67%	→	0%	→	33%	17%	17%	67%	0%
									児童	○	→	○	→	○	77%	→	65%	→	74%	43%	30%	26%	0%
									保護者	○	→	◎	→	△	63%	→	89%	→	50%	40%	10%	50%	0%
	4	本校では、ステップ学習や学んだことを振り返る機会を確保し、一人一人の実態に応じた学力の定着に努めていますが、あなたのお子さんは、学校で学習したことが身に付いていると思いますか。	A	-	A	-	A	朝ドリルの時間を中心に、学習したことをしっかり振り返る時間を確保したことにより、学力の定着につながっていると考える。2学期の児童の学力状況を見ても、前期に比べ確実に向上している。今後も、タブレットPCを効果的に活用したり、授業内容を改善したりして、児童のさらなる学力向上につなげていきたい。	教職員	◎	→	◎	→	◎	100%	→	100%	→	100%	50%	50%	0%	0%
									児童														
									保護者	◎	→	◎	→	◎	95%	→	100%	→	100%	10%	90%	0%	0%
「もくもくとがんばる子」を育む	5	あなたのお子さんは、早寝・早起き・朝ご飯を心掛け、食後の歯磨きなど望ましい生活習慣が身に付いていますか。	A	-	A	-	A	早起きはできているが、早寝に関しては習い事がある日に就寝時刻が遅くなる傾向があり、疲労がたまっている児童もいる。また朝ごはんは、全家庭で食べることができているが、内容については「パンだけ」「おにぎりだけ」という児童が多く、バランスのよい朝ごはんがとれるよう啓発していきたい。歯みがきに関しては、歯科衛生士と連携した歯みがき指導を通して意識が高まってきた。引き続き家庭と連携して指導をしていきたい。	教職員	◎	→	◎	→	◎	83%	→	100%	→	100%	33%	67%	0%	0%
									児童	◎	→	◎	→	◎	85%	→	100%	→	100%	35%	65%	0%	0%
									保護者	◎	→	◎	→	◎	100%	→	89%	→	90%	60%	30%	10%	0%
	6	本校では、登下校指導や学級活動等を通して、安全教育に努めましたが、あなたのお子さんは、登下校や遊びなど、いろいろな場面で、安全に注意して行動していますか。	A	-	A	-	A	地域の方の登下校時の見守りのおかげや日頃の安全指導の効果もあり、児童の交通安全等に関する意識が高まっている。今後、児童自身が自分の命は自分で守るという意識を育てていく必要がある。さらに、互いの行動が安全かどうかを判断する力を育て、互いに注意し合いながら学校生活を送れるようになるとよいと考える。	教職員	◎	→	◎	→	◎	100%	→	100%	→	100%	50%	50%	0%	0%
									児童	◎	→	◎	→	◎	81%	→	100%	→	100%	39%	61%	0%	0%
									保護者	◎	→	◎	→	◎	100%	→	100%	→	100%	30%	70%	0%	0%
	7	本校では、体育科の授業の充実及び、外遊びやITスタジアムへの参加による体力づくりに努めています。あなたのお子さんの体力は向上していると思いますか。	A	-	A	-	A	教職員、児童、保護者とも100%の肯定率であった。鬼遊びや業間マラソン、縄跳びなど、学年に応じて一人一人の体力の向上につながるような指導を心掛けている。県が推奨する「えひめ子どもスポーツITスタジアム」の競技にも挑戦し、クラス全員で目標に向かって運動する機会がプラスに働いている。引き続き、一人一人の体力向上を目指し、運動に親しむ児童を育てていきたい。	教職員	◎	→	◎	→	◎	100%	→	100%	→	100%	83%	17%	0%	0%
									児童	◎	→	◎	→	◎	88%	→	91%	→	100%	26%	74%	0%	0%
									保護者	◎	→	◎	→	◎	95%	→	89%	→	100%	20%	80%	0%	0%

む	8	本校では、3年生以上の子どもたちが下灘太鼓の練習に一生懸命取り組み、継承・発展に努めています。学校は、伝統や地域を大切に育っていると思いますか。	A - A - A	後期も、6年生を中心に、毎週の下灘太鼓の練習に一生懸命取り組むことができた。練習では、より良い演奏をするためにはどうすればよいか、意見を出し合いながら活動することができている。また、後期もゲストティーチャーに来ていただき、練習の様子を見ていただいたり、アドバイスをいただいたりすることができた。経験者に直接教えていただくことが、技術の向上や伝統を受け継ぐという意識の向上につながっていると考え。学期末には、6年生から在校生にしっかり下灘太鼓の引継ぎが行えるようサポートしていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	83%	17%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	85% → 91% → 100%	52%	48%	0%	0%
					保護者	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	60%	40%	0%	0%
「なかよく明るくい子」を育む	9	本校では、様々な教育活動を通して人権・同和教育の推進に努めています。あなたのお子さんは、互いの良さを認め合い、支え合う仲間づくりができていると思いますか。	A - A - A	人権・同和教育の推進に当たり、今年度は「人権ミニ研修」と称して教職員研修を5回行った。今後も、定期的ミニ研修を行い、児童を指導する立場である教職員の人権感覚が高まるように努めたい。そして引き続き、家庭（保護者）と連携しながら、人間関係を良好に整えられる力を身に付けさせるとともに、関係が悪化する前に対処できるようにし、自分の良さを知り自分を大切に育む児童、他者の良さを知り他者も大切に育む児童の育成を今後も進めていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	33%	67%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	92% → 96% → 100%	48%	52%	0%	0%
					保護者	◎ → ◎ → ◎	95% → 100% → 100%	20%	80%	0%	0%
	10	本校では、道徳教育の充実に努めています。あなたのお子さんは、思いやりや優しさ、望ましい行動や善悪を判断する力などの道徳性が育っていると思いますか。	A - A - A	道徳科では、2学年一斉で学習することで、多様な考えに触れ、道徳的な判断力、心情、態度が育ってきていることがうかがえる。また、他校や、本校児童が居住していない下灘地域の皆さんとの交流活動を行うことで、地域のよさを改めて知るとともに、新たな人間関係を生み、自分の生活を支えてくださっている方の存在を知り、思いやりや優しさのある言動を心掛ける心情も芽生え始めている。今後も、道徳科の授業だけでなく様々な学習や活動を通して、児童の道徳性を育てていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	33%	67%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	81% → 100% → 100%	48%	52%	0%	0%
					保護者	◎ → ◎ → ◎	100% → 89% → 90%	10%	80%	10%	0%
	11	本校では、児童会「えがおいっぱい委員会」を中心に挨拶運動を推進していますが、あなたのお子さんは、家庭や地域で気持ちのよい挨拶ができていますか。	A - A - A	「えがおいっぱい委員会」の活動の効果もあり、挨拶ができる児童が増えている。今後もよくできている児童を称揚するとともに、地域の人や来校者に挨拶をしたり、会釈をしたりするなど、相手や場面に応じ、進んで気持ちのよい挨拶ができる児童を育てていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	33%	67%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	81% → 100% → 96%	35%	61%	4%	0%
					保護者	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	60%	40%	0%	0%
「だんだんのびる子」を育む	12	本校では、子どもたちが自己肯定感をもてるように、一人一人を大切に指導の充実に努めています。あなたのお子さんは、自分のことを好きで大切だと思うことができていると思いますか。	A - A - A	小規模校のよさを生かして、学校行事や集会等で一人一人が活躍できる機会を大切に指導に取り組んでいる。また、縦割り班活動や、複式学級での学習を小規模校の強みとしてとらえ、上学年の児童が下学年の児童のお手本となったり、リーダーとなったりする機会を生かして、児童の自己有用感や自己肯定感を高め、自分のことが好きで大切だと思う気持ちを育てていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	67%	33%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	88% → 96% → 96%	57%	39%	4%	0%
					保護者	◎ → ◎ → ◎	89% → 89% → 100%	60%	40%	0%	0%
	13	本校では、学年の発達段階に応じて、相手と自分との関係を意識した敬語や丁寧語についての理解を促し、適切に使うことができるよう指導しています。あなたのお子さんは、時と場に応じた言葉遣いできていますか。	A - A - A	本校では、地域の方と交流をする機会や、地域ボランティアの方に学校の整備等をさせていただく機会が多い。その機会を捉えて、地域の方が児童を支えてくださっていることに感謝の気持ちを伝えるように指導しており、その場面では、関係性を意識した敬語が適切に使うことができている。しかし、普段の学校生活においては、お互いが近い存在であるがゆえに、児童間や、児童と大人の間で適切でない言葉使いをしていることもあるため、今後も継続して指導をしていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 83% → 100%	17%	83%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	92% → 100% → 100%	57%	43%	0%	0%
					保護者	◎ → ◎ → ◎	79% → 100% → 90%	10%	80%	10%	0%
	14	本校では、心のアンケートの定期的な実施や日常の触れ合いを通して児童理解に努めています。教員は、児童の変化や悩みに適切に対応していると思いますか。	A - A - A	全教職員で情報交換を密に行い、児童の心身の状態について常に共通理解を図りながら接するよう心掛けている。また、学級担任だけでなく、全教職員で全校の児童を見守り、指導するようにしているが、児童の肯定率が前期に比べ低下していることを受け止め、今後はより一層、心配なことがあれば気兼ねなくいつでも相談できるような信頼関係作りを努めていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	83% → 100% → 100%	83%	17%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	88% → 100% → 87%	39%	48%	13%	0%
					保護者	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	30%	70%	0%	0%
管理・運営	15	本校では、避難訓練や防犯訓練、非常時の引き渡し訓練を実施しています。学校は、これらを通して児童に安全対応能力を育てていると思いますか。	A - A - A	災害はいつ発生するか分からない。自分の命は自分で守る意識が必要である。実際に災害が発生したときに起こるであろう混乱を想定した避難訓練を計画し、実施した。後期は、原子力災害の発生を想定し、市危機管理課と連携した避難訓練を行った。また、不審者対応訓練の際には、侵入ルートや、教職員・児童の動き等を計画段階から何度もシミュレーションして実施した。今後も、災害発生前後の市への連絡、保護者への対応、地域との連携等に冷静に対応できるように訓練を重ねたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	33%	67%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	92% → 96% → 100%	30%	70%	0%	0%
					保護者	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	40%	60%	0%	0%
	16	勤務時間・健康管理を意識した働き方の促進に努め、自らの働き方の改善を図っていますか。	A → A → A	超勤時間については改善傾向である。ただ、学校現場での取組には限界があるため、教職員一人一人が優先すべき内容、段取り等を意識して、働き方を改善していく必要がある。そして、働きがいのある学校経営に努めていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	83% → 100% → 100%	67%	33%	0%	0%
	17	一人一人が自分の役割を自覚し、報告・共通理解・確認を密にしながら、組織として対応していますか。	C → A → A	児童の生命に関わることや事故、いじめ、不登校等の問題、保護者からの要望等は管理職に報告することを徹底した。基本である「報・連・相」はもちろん、最後の「確認（見取り）」まで行うことを習慣付けた。今後も、職員朝礼や職員会議の場を活用して、情報の共有化も図っていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	83% → 100% → 100%	67%	33%	0%	0%
18	会計事務、情報管理の厳正化や綱紀の保持など、服務規律の遵守に努めていますか。	A → A → A	会計事務や情報管理は、事務担当とも互いにチェックし合い、遺漏がないように行えた。不祥事防止のため、定期的に不祥事防止チェックを実施した。常に全体の奉仕者である意識を持てるように職員会等で服務の遵守を促していきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	83%	17%	0%	0%	

【学校運営協議会の委員の皆様からの御意見と学校としての対応】

学校運営協議員様からの御意見	学校としての対応
<p>読書が親しんでいない子どもたちもいる。学校ボランティアとして、毎週読み聞かせに行っているが、そこでは集中して聞いている。しかし、自分で読むとなると億劫になるのか、短い簡単な本を読む子も多い。発達段階に応じた本を選び、じっくり読書ができる子どもを育ててほしい。</p>	<p>読書に楽しさを感じていない児童が多いことが課題であったが、図書委員会を中心に、読書活動推進に向けたクイズや読書ビンゴ、読書パズルなど、楽しい読書に向けた取組を行うことで、徐々に図書室を利用する児童が増えてきています。また、各学級で本の面白さを伝え合い、読書の楽しさ実感するためにおすすめの本を紹介し、最も読みたくなった本を決定する「ビブリオバトル」の取組も始まりました。今後も、児童が本を身近に感じ、楽しみながら読書を進められるように、図書委員会の企画を工夫したり、各学年で、また学年の枠を超えてビブリオバトルのような本に親しむ機会を増やしたりするなど、読書に親しむ子どもたちを育てていきます。</p>
<p>地域とのつながりを深める活動が多くなされ、地域住民が元気付けられている。今後も地域と学校の交流を続け、下灘地域の活性化とともに、心の豊かな子どもを育ててほしい。</p>	<p>地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して、今年度から校区内の小学生が居住していない地域に出向いて交流する「おしゃべり交流会（8地区）」を行いました。回を重ねるごとに子どもの成長も実感し、何より地域住民からの期待感を強く感じる一年となりました。子どもたちの移動に関する課題はありますが、今度も地域に出向いた交流活動を続け、地域のよさを知り、地域を元気付けるとともに、心の豊かな子どもたちを育てていきます。</p>
<p>気持ちの良い挨拶ができています。地域住民や来校者、学校ボランティアの方々と活動することも多い。今後も、このような挨拶ができる子どもを育ててほしい。</p>	<p>「えがおいっぱい委員会」の活動の効果もあり、挨拶ができる児童が多くいます。今後もよくできている児童を称揚するとともに、地域の人や来校者に挨拶をしたり、会釈をしたりするなど、相手や場面に応じ、進んで気持ちの良い挨拶ができるように指導を続けていきます。また、相手の気持ちに寄り添った言葉遣いができるように、日常的な言葉遣いについても継続的に指導をしていきます。</p>

行事や参観日の案内が届くたびに、毎回楽しみに参観している。心の教育とともに、生きる力となる学力の定着も、少人数のよさを生かし、一人一人に応じた教育を推進してほしい。

今年度は、人権・同和教育の推進に当たり、「人権ミニ研修」と称して教職員研修を定期的に行いました。今後も、人権・同和教育研修を行い、児童を指導する立場である教職員の人権感覚が高まるように努めていきます。

複式授業においても、校内研修を充実させ、一人一人の主体的な学びを育てるとともに、児童が文章を読み取ったり、読み取った内容や自分の考えを主体的に表現しようとしたりするための分かる授業づくりに努めていきます。来年度も、児童一人一人の学力を保証するために、教員間での情報共有等を積極的に行うなど深い学びに向けた授業改善を推進することで、教師の授業力の向上を目指します。

今後も、学校運営協議会委員の皆様には、参観日だけでなく、学校行事等を案内し、学校の教育活動を見ていただく機会をできるだけ多く設定していきます。

令和7年度 学校評価を生かした主な改善点について

伊予市立下灘小学校

【「しっかりと考える子」をはぐくむために】

- 学習ルールが定着し、落ち着いた態度で学習に取り組んでいます。自分の学習態度を振り返り、意欲的に学習に取り組もうとする態度が育ってきました。
- 繰り返し学習や発表・振り返りの機会を増やしたことで、学力の定着につながり、児童が自信を持って学習に取り組めるようになりました。今後も、自分の考えを主体的に表現する機会を充実させるとともにし、ICT（ロイロノートやEILS、ライブラリなど）を有効的に活用して、個に応じた学びとともに、協働的な学びを充実させ、さらなる学力の向上につなげていきます。また、一人一人の学習状況を分析し、「分かる授業」を推進していきます。
- 図書委員会が「読書ビンゴ」「読書パズル」をしたり、おすすめ本の紹介「ビブリオバトル」をしたりするなどして、様々な本に親しむ機会を増やしてきました。今後も、児童に読書の楽しさを伝えることで、進んで読書に親しむ態度を育てていきます。

【「もくもくとがんばる子」をはぐくむために】

- 朝食を取って登校するなど望ましい生活習慣が身に付いている家庭が多いです。一方で、習い事やゲーム・スマホ等で寝る時間が遅くなっている児童もいます。今後も、規則正しい生活が送れるように「衛生強調週間」を設定し、生活習慣についてアドバイスを継続していきます。
- ITスタジアムや外遊び（サッカーや縄跳びなど）に積極的に取り組み、学年に応じた体力が身に付いてきました。また、地域の方の登下校時の見守りや避難訓練等で、交通事故や自然災害から、自分で命を守るという意識が定着してきました。
- 下灘太鼓の練習にOBや漁業後継者の会の方に参加していただき、先輩からの伝統を引き継ぐということを意識して取り組んでいます。下灘太鼓を通して、地域の方と触れ合い、地域を大切にしようとする思いを育てるとともに、地域の一員であるという自覚を高めていけるようにしていきます。

【「なかよく明るい子」をはぐくむために】

- 地域の方や他校との交流を継続することで、互いの良さを認め合い、支え合う仲間づくり

ができてきています。また、相手への思いやりとやさしさのある言動を心掛ける心情も育ってきています。学習リーダーも少しずつ育ち、自分たちで自律して行動しようとする態度も見られました。今後も、この態度が育っていくように、学年に応じた支援を続けていきます。

- 道徳科では、2学年で学習することで、多様な考えに触れ、自他の思いを大切にする児童が育ってきました。内容によって1学年で実施したり、3学年以上の合同で実施したりするなど、多様な授業形態を取り入れることで、新たな人間関係を生み、思いやりや優しさのある言動も見られるようになりました。
- 地域の方や来校者に進んで気持ちの良い挨拶をする児童が増えました。今後も、進んで気持ちの良い挨拶ができる児童を育て、時と場に応じた挨拶を意識できるように指導を続けていきます。

【「だんだんのびる子」をはぐくむために】

- 学校行事や授業、集会等での地域の方との触れ合いの場を充実させていく中で、地域の一人として役に立ちたいという感情が育ちつつあります。
- 言葉遣いについては、相手の気持ちに寄り添った、優しい言葉遣いができるよう指導を継続してきました。時と場に応じた適切な言葉遣いができるようになってきました。今後も、日常的な言葉遣いについて継続的に指導をしていきます。
- 小規模校の特質を生かし、児童一人一人に対応した個別相談の時間を確保し、個に応じた指導や支援を行い、自己有用感を育てる指導を続けていきます。

【管理・運営の徹底を図るために】

- 防災について、昨年度の反省を基に、計画を見直し、実際に災害が発生したときに起こりうる混乱を想定した避難訓練を実施しました。今年度は市の危機管理課と合同避難訓練を行いました。今後も児童・教職員の安全を第一に考え、市・地域との連携、保護者への対応等、より良い防災に取り組んでいきます。
- 教職員のワーク・エンゲージメントの向上が見られます。今後も、管理職や同僚との「信頼関係」や、やりがいや働きやすさなどの「働きがい」のマネジメントに努めていきます。
- 報告・連絡・相談はもちろん、最後の「確認（見取り）」まで徹底するようにしました。今後も、職員朝礼や職員会議の場を活用して、情報の共有化を図り、報告・連絡・相談、そして確認まで遺漏なく行えるように努めていきます。